

■ ^{つづり}綴り方を柱にした教育者

木村 文助

きむら ぶんすけ

出身地 北秋田市（旧合川町）

1882年（明治15年）～1953年（昭和28年）

^{つづり}綴り方を通して生活を理解し、^{きょうど}郷土に切り込もうとする教育を^{じっせん}実践。児童たちの^{つづ}綴り方は雑誌『赤い鳥』を通して有名になる。文芸^{しじょう}至上的な立場から生活主義へと変化していく。^{きむらふじお}木村不二男の父。



年譜

- 1882年 北秋田市（旧合川町）に生まれる。
- 1902年 秋田県師範学校を卒業。
- 1911年頃 真中尋常高等小学校校長。綴り方教育に専念。
- 1917年 北海道に移住。
- 1918年 北海道渡島支庁大野尋常高等小学校長。
- 1922年 『赤い鳥』誌上に指導作品が入選。
鈴木三重吉の高弟といわれる。
- 1927年 指導文集『綴りかた生活・村の子供』で有名になる。
- 1929年 指導文集『村の綴りかた』で教育界に影響を与える。
- 1953年 北海道で没。71歳。